

—輝く農業人—

きら星

子どもたちに

安全でおいしい

小松菜を届ける

足立区伊興

やまごき
山崎 光治さん
みつはる
(45)



山崎さんと奥様の暁子さん

【プロフィール】

45アールのハウスで1年を通し小松菜を栽培。趣味はドライブ。父・妻・長女・長男・二男との6人家族。

山崎光治さんは一年を通して小松菜を栽培し、市場出荷のほか、足立区内の小・中学校10校へ納入しています。

小さい頃から農業を継ぐと決めていた山崎さんは農業大へ進学し、二年間農業を学び、卒業と同時に20歳で就職しました。

当時は大学で学んだことと、お父様の藤雄さんが教えてくれたことが異なり、戸惑いもありましたが、小松菜栽培の年数を重ねて行くなかで、良いと思ったことを取り入れて行きました。「時には失敗もあったけれど、父が自分の思うようにやらせてくれたのが良かった」と山崎さんは話します。

このようななかで培った経験を活かして、現在では春夏秋冬で品種を変えて良質の小松菜を栽培しています。

特に学校給食へ納入するようになってからは味にこだわり、自分で食べてみて苦みなどがなく子どもたちが食べやすいものを栽培するように心掛けています。また、子どもたちが食べる野菜は安全面を重視し、化学肥料や化学農薬を減らすよう意識しています。

こうして栽培された小松菜は、毎日一人で5〜6校へ届けています。給食で山崎さんの小松菜を使用している小学校の3年生が足立区内の農業を学ぶため、社会科学の授業で畑へ年に2〜3回見学に来きます。畑では、奥様の暁子さんと二人で小松菜の出来るまでを種や播種機、耕運機などを見せて説明します。子どもたちは自分が給食で食べている小松菜について熱心に話を聞き、説明の中で「この小松菜は明日学校へ持って行きます」と話すと大喜びをするそうです。

このほか、近くの保育園から園児たちが小松菜収穫体験にやってきました。初めての収穫体験で葉だけを引っ張る子や力を入れ過ぎて茎を握りつぶしてしまう子もいます。園児たちに人気なのは播種機で、交代で走りながら押す姿は可愛らしいと、子どもたちの話をすする山崎さんはとても優しい笑顔でした。

認定農業者、そして家族協定を結んでいる山崎さんは、藤雄さんと暁子さんの三人で農作業を行っています。年末の繁忙期には農業に興味を持っている小学生の二男が小松菜を洗う手伝いをしてくれるそうです。「子どもたちには農業を継いでくれとは言わない。自分がやりたいことをやればいい」と話していると教えてくれました。

山崎さんは今日も地域の子どもたちへ安全でおいしい小松菜を届けています。



暁子さん、お父様の藤雄さんの三人で作業をしています。山崎さんはP5掲載の「平成29年度 東京都農畜産物共進会技術・圃場の部」で優秀賞に選ばれました。